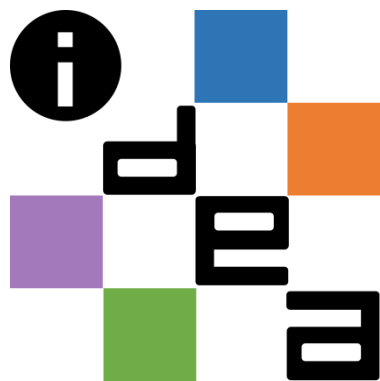




NPO・行政・企業・地域の情報発信により、アイデアと出会いの機会を創ります。

ニュースレター アイデア

2016

5月号

つながり×ひろがる

いちのせき市民活動センター



- | | | |
|---|---------|-------------------------|
| 2 | 二言三言 | 子育て世代が考える地域づくり |
| 4 | 団体紹介 | 農地・水・環境保全向上徳田地区活動組織(藤沢) |
| 5 | 地域紹介 | 室根町 室根第2区自治会(室根) |
| 6 | 企業紹介 | 農業の六次産業館 古代米おりざ(花泉) |
| 7 | センターの〇〇 | 花より、おらほの‘団子’！ |

子育て世代が考える地域づくり

対談者 興田地区振興会 地域協働推進員 千田 秀明 さん
舞川地域課題対策協議会 同上 吉田 真梨子 さん
聞き手 いちのせき市民活動センター センター長 小野寺 浩樹

地域づくりに大切なのは「話し合いの場」

【小野寺】前にも地域協働推進員（以下「推進員」）さんとの対談は行いましたが、今回は推進員としても、PTAとしても地域づくりに関わっているというところでの話をお聞きしていきたいと思い、お二人との対談をご用意させていただきました。まずは、お二人が推進員になろうと思ったきっかけを教えてください。



興田地区振興会
地域協働推進員
千田 秀明さん

【千田】私は、前職時に一関商工会議所青年部に加入していたんですが、皆さんすごく熱心に地元を盛り上げたい・よくしたいという方がいっぱいいて、すごいエネルギーだなと思ったんです。ふと振り返ってみると、自分は地元のために何もやっていないと考えさせられまして、そう思っているときに推進員のお話をいただき、しばらく悩みましたが、そういうお話を頂いたのはありがたいなと思い引き受けました。

【吉田】私は、舞川地域課題対策協議会（以下「課題協」）から、「課題協の事務局的なことをお願いしたい」というお話を頂いたのが最初でした。もともと舞川に住んでいて地域のことが好きなので、面白そうと思い推進員になりました。

【小野寺】お二人共、一大決心をされたなと思っています。これから自身が地域を動かし仕事をつくっていくということは非常にやり甲斐があるでしょうし、やったらやった分だけ実入りをしていかなければならないという、新しい仕事を作り出していくところでも面白みがあると思います。

実際に推進員になってみて、協働を進めることが難しいのか、地域づくりを進めるのが難しいのか、それぞれ感じることもあると思うんですよ。率直にどう感じていますか？

【千田】仕事を始めてまだ半年ですが、まだ難しいというところには至っていないくて、これからかなと思っています。今までやってきた中では“話し合い”が大事だなと感じていまして、一方的に「あの人はこう思っているだろう」とか考えてしまいましたが、よく話を聞いてみるとそうじゃなくて、「あっ、そういう考え方もあるんだな」と気付かされたこともあり、話し合いが大事なのかなと思いました。

【小野寺】興田はワークショップの場に慣れてきた感じがあって、皆さんしゃべるようになりましたよね。

【千田】まだ回数をこなしていないので「何かさせられる感」があるので、これから何かのタイミングでそういう話し合いの場を随時設けていけば、おそらく「ワークショップって自分達の話聞いてくれる場なんだ」ということをわかっていただけたらと思います。

【小野寺】吉田さんはいかがですか？



舞川地域課題対策協議会
地域協働推進員
吉田 真梨子さん

【吉田】最初は何もわからず、自分がどんな立ち位置でいればよいのかわからない状態でした。今はもう半年くらい経ちますが、少しずつ進め方が見えてきて、最近すごく楽しいと思うようになったんです。

意見を聞き入れる場所って大事だなと思っています。話したいことはたくさんありますが、話す場がなかったり、上に偉い方々がいると若い方達は話しにくかったり、「どうせ自分が言ったって」という気持ちでいる方もいるかもしれません。そこを、どうやって皆が意見を言いやすい場をつくるか、意見を吸い上げるかというところを頑張りたいと思います。

【小野寺】多分、地域の人たちは自分の話を聞いてもらえる場を求めているんじゃないかと思います。意外と話をする場ってないじゃないですか。ワークショップの場で話したこと

が実現されれば、参加した皆さんは面白みを感じてもらえるでしょうし、今までなかったものをつくっているというのは、新しい土台を作れているのかなと思いますね。

若者を巻き込んでいくには

【小野寺】PTA世代・PTAの立場から見て若い方の参加はどう映っていますか？若者の代表という位置づけで、PTA会長さんを会議にご案内したり、組織に入ってもらっている地域もありますが、若者をうまく取り込んでいくにはどうしたらいいかという声がよく地域から聞こえてきますよね。

【吉田】若い人たちは仕事で忙しいからなんだかんだって、これ以上参加するようなことは減らしてくれという方も多いようです。でもやってみると楽しいこともあるんだってことを伝えたいです。

【千田】参加しても結果がついてこないとか、何が得られるのかが見えないとか、そういうのも原因にはあるのかなと思います。



【小野寺】目的と成果が見えないから心配だし、何かやらされるのではという不安感があるんじゃないかなと思いますね。

でも千田さんも吉田さんも、結構周りを巻き込んでいるじゃないですか。ワークショップに呼んだり、舞川だと講演会に来てもらったら、PTAのメンバーの方々に「写真撮ってね」「お茶用意してね」とか役割を振ったり。それって参加の誘発剤になっているなと思っていて、あて職でPTA会長は来ますが、自分が一人だと大変だから、もうちょっと巻き込むという促進になっているところでは、舞川と興田は参加しやすい雰囲気ができているのかなと思っています。それがPTA会長の役じゃないかなと思いますね。

でも、PTAに集中してしまう今の風潮もよくないと思うんです。なので、PTAも独身者も入れる青年部を地域で復活させましょうという話を地域でさせてもらっているんです。そういう組織がないと独身者は地域での居場所がなくなるし、何でも若者＝PTAになるのは避けたいです。ね。

地域に行って話をしてみると、「若い人が参加しない」って話が出てきますが、若い人たちが参加できるそもそもの仕組みも場もないわけですね。たぶん、PTAの立場として推進員をしているお二人は、同じPTAの仲間がいるので率先して関係をつくりやすいんじゃないかなと思います。

二人が考える「こんな地域協働推進員になりたい」

【小野寺】地域で子育てしやすい環境をつくるためには何が必要だと思いますか？

【吉田】具体的にはまだ何も動き出せていませんが、民生児童委員さんなど専門的に関わる方々がいるので、横のつながりと子どもたちのつながりをつくってあげることが必要だと思います。

【千田】アンケートやワークショップとかで、若い子育て世代の悩みとか、「これが困る」「こうしたい」という意見が出るんですが、逆に先輩からは「こうしたいの」「こうしてあげられるの」というのがあるので、そこを噛み合わせてマッチさせられるのが、コーディネーターである推進員の役割なのかなと思いますね。

【小野寺】お二人がそういう想いでいてくれてすごくいいなと思いました。本来の推進員の立場って、真ん中に立ち、中立的な立場で、それぞれを繋いであげて、それぞれが上手くいくように背中を押してあげる役割だかなと思いますので。二人が窓口になり、地域住民の相談対応者であるとういと思っています。

【千田】私がこの仕事を始めてから「この仕事したいんだけど」とか、「地域おこし事業の申請、事務局にお願いしますから」とか相談を受けるようになりました。実際、イベントを5月5日に行いますが、事務方との仕事とは別に申請書づくりを家に帰ってからやったりして、そういう風に私を踏み台にしてでもいいので、やりたい人のお世話ができればそれに越したことはないかなと。

【小野寺】相談に来られるのはすごいことですね！

【千田】頼りにしてくれてるのかなと、嬉しくなりますね。

【小野寺】それでは最後に、これからの意気込みをお聞きたいと思います。

【千田】せっかく吹いてきた風ですので、風が止まないように熱をもって熱風になっていけばいいなと思います。最初の動き出しは、車と同じで力があるかもしれませんが、動き出せばゴロゴロゴロっと進むと思いますので、今はその第一歩なので、そうできればいいなと思います。

【吉田】自分が推進員になれたってことが言ってしまうと奇跡だと思っていて、そこから世界が一気に広がり、色々な人達との付き合いも増えました。舞川もどんどん盛り上がったら楽しいな。私のことも小さい踏み台にもらってかまわないので、どんどん皆さんの支えになっていけたらと思います。

基本情報

【興田地区振興会】

〒029-0602

一関市大東町鳥海字細田 19-2 興田市民センター内

TEL 0191-74-2201 FAX 0191-71-3001

【舞川地域課題対策協議会】

〒021-0221

一関市舞川字中里 84-1 舞川市民センター内

TEL 0191-28-2111 FAX 0191-28-2341

団体 紹介



農地・水・環境保全向上徳田地区活動組織と雇用促進住宅に暮らす皆さん

～基本情報～

- ◆会 長：千葉ひろあきさん
- ◆連絡先：〒029-3404
一関市藤沢町徳田字荒谷
18 番地 1
- ◆電 話：0191-63-2107

環境保全を通じて地域を清く・楽しく・美しく

地域 みんなで環境保全

徳田地区は藤沢町の東部に位置し、東には千厩町、室根町にまたがる黄金山、南には保呂羽山がある豊かな自然に囲まれた農村地区です。10 年間、徳田地区の環境保全を通じて、地区内外の人のふれあいをつなぎ続けてきた「農地・水・環境保全向上徳田地区活動組織」の皆さんにお話を伺いました。

同組織は、平成 19 年に全国各地で「農地・水・環境保全向上対策」が始まったことをきっかけに、地区内の各種団体が一丸となって地域の環境保全をすることを目的に「農地・水保全管理支払交付金（現「多面的機能支払交付金」）」を活用し、発足しました。

発足以降は、地区内自治会との花壇づくりなどの景観形成や消防団との防火水槽やため池の点検・保全、子ども達との川の生態調査などに取り組みました。実際に地域を見て歩いたことで、ため池が機能していなかったことや草木が伸びっぱなしになっていたことなど、地域の現状に気づくことができ、「組織の発足前と比べて地区内の見晴しはとてよくなった」と代表の千葉ひろあきさんは振り返ります。

川の生態調査をきっかけに始めたホタル観賞会は、毎年夏の恒例行事となり、地区内外から子ども達が集まります。

「あの時がんばったね」と言えるように…

地区内で活動が定着してきた平成 23 年に東日本大震災は起こりました。徳田地区では、直後から地区内自治会が連携し、沿岸被災地へ物資の支援へ向かうと同時に、藤沢町の雇用促進住宅に入居した被災者を歓迎・支援しようと、同年 4 月に雇用促進住宅の庭の草刈をして「ふれあい交流会」を開きました。その後、

同年 6 月には同組織の事業として、徳田地区の活動拠点である徳田交流館の隣にある田んぼを地域との交流の場としました。田んぼの名前は「ふれあい絆水田“がんばっ田”」。「あの時はがんばったね」と振り返られるようにという想いを込め、名づけられました。

がんばっ田では毎年など、雇用促進住宅入居者と一緒に田植えや稲刈りを行い、収穫祭には市外からの支援団体も加わり、盛大に食事や会話を楽します。年を追うごとに雇用促進住宅を離れる人も増えてきましたが、収穫祭の連絡をすると故郷の海の幸を持って駆け付ける人もいます。

笑顔咲かす絆のサクラ

今年 4 月、震災直後に陸前高田市の寺院に支援物資を届けた際のお礼にと譲られたオオシマザクラ 28 本が、がんばっ田側の丘に植樹されました。植樹された桜の様子を見に来た雇用促進住宅に暮らす阿部八代子さんと千葉みなこさんは「田植えや稲刈り、餅つきなど、親身になって誘ってくれる徳田の皆さんのおかげで楽しく過ごせています」と笑顔を見せます。

同組織の皆さんも「もっと桜を増やして老若男女、地区の人に限らず花見を楽しめる場所にしたい」「丘への遊歩道を整備して、いつでも見に行けるようになくては。東屋もほしい」「オオシマザクラの葉は香りが良いからみんなでついた餅を包んで桜餅にしてもいいかも」等々、話は尽きません。人のつながりから生まれた夢と笑顔はまだまだ広がります。

昨年の「がんばっ田」の田植えの様子



地域紹介



自治会長 熊谷嘉尚さん（中央）

～基本情報～

- ◆自治会長：熊谷嘉尚さん（3期5年目）
- ◆84世帯252人が暮らす室根第2区自治会。室根町は一関市の最東端に位置し、第2区自治会「浜横沢下地区」は宮城県気仙沼市と隣接し交流活動も盛んです。

高齢者も地域 みんなも安心して暮らせる環境づくり

みんなの笑顔が地域の潤いに

室根町の中でも、もっとも宮城県気仙沼市に近い室根第2区自治会。震災後は、気仙沼市内で被災された方々を地区内に受け入れ、その後も交流を続けるなど人と人との絆や交流を大切にしている地区です。

自治会行事の取り組みについて伺うと、「花いっぱい運動や敬老会、季節の祭りや環境整備活動など、こら辺の自治会と共通した行事を行っています」と語るのは自治会長の熊谷さん。「何事も継続するということは、大変なこと。周りの協力や体制が重要です。被災地ボランティアや地区行事においては、みなさんの笑顔とやる気にこちらが元気をもらっていますよ」と続けます。

交流の場「2区カフェ」

室根町では、高齢者を地域で見守る「お元気ですかネットワーク事業」が平成26年度からスタート。この事業は町内の関係機関や団体で組織した実行委員会が主体となり、75歳以上の一人暮らしや老々世帯に「お元気ですかだよ」と「手作りおやつ」を持参し健康状態などを確認しながら高齢者を見守る活動。

同自治会でもこの事業に参加するとともに、平成27年6月から月一回、高齢者を見守りと交流を「2区カフェ」という独自の形で開催しています。このカフェは、一人暮らしの高齢者や老々世帯だけでなく、地区内すべての高齢者を対象とし、学習会や軽体操など頭や体を使ってリフレッシュしたあと、参加者みんなで昼食を囲み地域の出来事など会話を弾ませます。

カフェの企画運営は、自治会長、副会長、保健推進員2名、赤十字奉仕団2名、民生委員1名、自治会構成員1名の合計8名で、高齢者が楽しく笑顔で過ごせるように体制を整えています。

高齢者を見守るという本当の姿

「実際に見においでよ」と、熊谷会長からお誘いを頂き、3月の「2区カフェ」にお邪魔してきました。その日はまだ、雪が舞い寒さの残る3月上旬。すでに20名ほどの参加者が来館しており、スタッフの開会とともにカフェが開店しました。

カフェの前半は、大東町レクリエーション協会の五日市道子さん（室根町在住）の指導で、手足の運動やリズム体操など、こまめにお茶休憩を含みながら行い、「あ～おもしろい（面白い）おもしろい」と皆さん汗と笑顔が輝いていたのが印象的でした。

体を動かした後はお楽しみの昼食会。3月ということで今回のメニューはちらし寿司とお吸い物。メニューは自治会長である熊谷さんが料理長となり毎回参加者が楽しんでくれるよう栄養バランスや食べやすさに気を配っているのだとか。大勢で囲む昼食は、和気あいあいと温かく、最近の出来事や昔話をみんなで共有しながら美味しくいただきました。

最後に熊谷さんは「地域での見守りというのは、一人暮らしの家に訪ねてお菓子を渡して『変わりないですか？』って聞くだけじゃないと思うんだよね。できるだけたくさんの方々と話題を共有したり、共に体を動かしてみたり、一緒に食事を囲んだり。こういうことが地域全体で高齢者を見守るという形なんだと感じる」と語っていました。



移動手段のない方は、運営スタッフの車で送迎を行い、都合が悪く参加できない方へはスタッフがお弁当を届け見守りを行います。

企業紹介



代表 佐藤正弘さん

～基本情報～

- ◆代 表: 佐藤 正弘さん
- ◆連絡先: 千029-3207
一関市花泉町涌津字境 11-3
- ◆電 話: 0191-82-3372
- ◆F A X: 0191-82-3372
- ◆営業時間: 9:30～18:00 日曜定休

食育、体験、交流の場として多目的な利活用ができる施設

様々な交流ができる施設を

古代米を活用し、「生産（1次）加工（2次）そして販売（3次）までをこなす農業の6次産業化」をモットーに健康食材の発信、創作交流の場、地産地消の場として運営している産直施設「古代米おりざ」。

ログハウスをイメージする店内には古代稲の標本やそれを利用した加工品などが飾られ、温かみのある雰囲気になっていました。店内では、地元で栽培している古代米や野菜を使った惣菜や汁物、お弁当や菓子などが販売されており、購入した商品は店内の食事処でゆっくりといただくことができるシステムになっています。

古代米おりざが取り扱う古代稲などの加工品は約70種類で、玄米のほか稲穂や稲わらは生け花や正月用のしめ飾り民芸品に加工され、展示販売されています。「お年寄りの生きがいづくりにも少しでも役立ててもらえれば」と古代稲のわら細工加工は地元の高齢者の手仕事として依頼することもあり、「わら細工加工の伝統活動には今後も力を入れていこうと思います」と続けるのは産直施設の代表であり花泉古代稲生産組合事務局も務める佐藤正弘さんです。

組織化で地産地消をスムーズに

代表の佐藤さんは、旧花泉町職員として35年間務めた後、「農業の6次産業化」を目指して転職。「現職時代、農家の現状を目の当たりにし、様々な葛藤をいなく中で、『農業の改革をしていきたい』と思い行動に移しました」と当時を振り返る佐藤さん。その頃、グリーン・ツーリズムに対する関心も高まり、農業体験や情報の発信と交流の拠点施設を地元につくろうと思い、平成14年4月に産直施設「古代米おりざ」をオープンしました。

現在、産直施設の運営に関わるメンバーは佐藤代表を含む3名ですが、古代米生産機能を組織化し（花泉古代稲生産組合）そこで生産した古代米や新鮮な野菜などを施設で加工販売するというシステムの導入で地産地消の環境を整えています。また、地元の方々の加工品や手芸品の展示及び販売も行っており、地域内外を問わず多様な方々の交流の場ともなっています。

農業体験学習指導の方向性

同施設の店舗裏に実習田があると聞き、お話を伺ったところ「一昨年までは地元の小学生を対象に、店舗裏の水田で農作業体験学習（田植など）の指導を行っていましたが、そろそろ指導者の世代交代も必要と考え、後継者として要請、現在は各地区単位でその地域の方々が学校に出向き、引き続き農作業体験学習指導を行っています」と語る佐藤さん。「生活を営み続けるためには食農は不可欠ですから、特に主食である米づくり、水田は地域の宝。小さいうちから体験させ、当たり前前に食べているお米がどういう過程からでき上がり、農家はどのような気持ちで米を育てているか肌で感じ学ぶという体験は、今後も続けていきたいことです」と語ります。

さらに、町内の知的障がい者授産施設との交流も長く、同施設で生産された農作物等の販売協力を行うほか、花泉古代稲生産組合としても季節行事への参加交流を継続しています。最後に佐藤さんは「今後も地域の方々が食と農に親しみながら店舗を交流の場として利用していただき地域の活性につなげたい」と締めくくりました。

光と空間をうまく利用している店内は、落ち着いた雰囲気でも心にも優しい集いの場です



今回の特集は？ 花よりおらほの‘団子’！

センターの 〇〇！



一関市厳美 空飛ぶ団子“郭公団子”

～今月の特集～

春と言えば、「花より団子♪」ということで、今回は団子の特集をお送りいたします。団子に関する豆知識や、一関の団子の特徴、一関の美味しいお団子屋さんをご紹介します！

団子の歴史

「団子」という表記は、平安時代の書物に登場したのが最も古く、鎌倉時代の料理書には、調理方法が記されていたとのことです。室町時代になると団子を「だんご」と読むようになり、竹の串に通したものが流通するようになりました。江戸時代になると都市部では甘味団子が作られ庶民の茶席や行楽のお供として愛好されたようですが、農村部では主食の代用品や非常食として食すなど、その意味合いは異なっていたそうです。

また、地域によっては様々な呼称があるようで、例えば東北地方では「だんす」、新潟県などでは「あんぶ」、滋賀県や四国地方では「おまる」と呼ばれているようです。団子と餅の違いについては、「団子は粉から作るが、餅は粉を蒸してから作る」「団子はうるち米の米粉を使うが、餅はもち米を使う」「餅は祝儀に用い、団子は仏事に用いる」など、様々な言われがあるようですが、明確に区別する定義はなく、地域によっては団子を餅の一種扱いにしているところもあるようです。



一般的な団子のイメージ

一関の団子は平べったい！？

「団子」と聞くと、まん丸い「甘辛醤油味のみたらし団子」を想像する方も多いのではないのでしょうか？しかし、私たちが暮らす一関市内の団子の形をよ～く思い出してください。

岩手県内でも花巻方面(南部藩)では、めったに売っていないそうで、一関方面(伊達藩)で目にする団子。「糸きり団子」という名称です。

団子は先にもご紹介した通り、穀物の粉を水やお湯を加えて丸め蒸したり茹でたりする調理方法ですが、この糸きり団子の場合は、うるち米を臼で突き、餅のような粘り気のある状態にし、それを棒状にのばし加工していくわけですが、餅のように粘り気があることで、丸めたり包丁で切ったりするのが困難なので糸で切ることから「糸きり」と命名されたようです。また、食感もモチモチとしてまるで一口サイズの餅のよう！一関市は餅文化のまちですが、特徴的な団子の形やその調理方法もその流れがくまれているのかなあと感じました。



①



②



③

ふるさとの味自慢

市内にはたくさんの美味しい団子屋さんがありますね。一関地域の郭公だんごや滝見だんご、花泉地域の小松屋だんご、室根金成屋の室根だんごなどなど、餡のかけ方や柔らかさの比較等々一つ一つの特徴をご紹介したいところですが、今回はこの辺で。

今回写真でご紹介した団子屋さんは右記に詳細を記載いたしました。「おらほには、こんな団子があるよ！」という特ダネがございましたら、ぜひご紹介ください。

①
大林製菓
〒021-0011
一関市山目 1-7-12
電話：0191-26-4005
新鮮館おまちでも
販売しております

②
小松屋だんご店
〒029-3206
一関市花泉町粒乱田 69-11
電話：0191-84-2362
新鮮館おまちでも
販売しております

③
産直ふるさと大東
〒029-75-3134
一関市大東町法民字関ノ上 114-4
電話：0191-75-3134
産直加工部で製造。
甘すぎない案が癖に
なります

次回の特集予告・・・
こどすも田植始まるよ～特集です。
お楽しみに！！

おしらせ

川崎

いちご狩り

甘くて美味しい、いちごの収穫を体験できます。お土産用のいちごも販売しています。ご家族連れでどうぞお越し下さい。赤いいちごが無くなり次第シーズンとして閉園になります。平日は要予約となります。

【期間】平成28年2月1日(月)~5月17日(火)

【場所】もぐもぐの里

【料金】[大人]1,200円 [小人]1,000円

[幼児](3才~未就学児童)800円

【電話】090-6854-4569

一関

第48回子どもの森

昔遊びや巨大迷路などの遊びで楽しく交流する「第48回子どもの森」を開催します。竹下駄や魚釣りなど、楽しめる遊びを多数ご用意いたしますので、ぜひ親子・お友達と一緒にお願いします！

【日時】平成28年5月8日(日)10時~14時

【場所】山目市民センター

【料金】無料

【問合】同実行委員会・橋本

【電話】0191-23-9721

一関

第48回子どもの森 ボランティア募集

第48回子どもの森の前日準備・当日の2日間お手伝いいただける方を募集します。お気軽にお問い合わせください。

~1日目~

【日時】平成28年5月7日(土)14時~16時

【内容】ダンボールの巨大迷路を作ります。

~2日目~

【日時】平成28年5月8日(日)9時30分~15時

【内容】お子さんと遊んだりお世話をします。

【場所】山目市民センター(2日間同じ)

【電話】0191-23-9721(実行委員会・橋本)

一関

新緑の荘園遺跡と胆沢道路

中世の時代から姿を変えない骨寺村荘園遺跡を、ガイドを聞きながら皆で歩き、昨年開通した「栗駒焼石ほっとライン」をバスでドライブします。申込締切は5月11日(水)、定員は30名です。

【日時】平成28年5月14日(土)

8時30分~16時30分

【場所】一関市役所駐車場集合・解散

【料金】1,000円

【問合】骨寺村荘園交流館(若神子亭)

【電話】0191-33-5022

藤沢

第4回 田舎の工場見学バスツアー

いちのせきニューツーリズム協議会では藤沢にあるマーナーコスメチックス、フラワーガーデン、菓子工房菊干(体験)、和興ニットの工場などを見学するバスツアーを行います。申込締切は5月19日(木)、定員は25名です。

【日時】平成28年5月26日(木)10時~16時頃

【場所】一関駅西口 集合・解散

【料金】4,980円(税・昼食・体験料込)

【催行・問合】(株)まるく

【電話】0191-34-8421

藤沢

恋せよ、館ヶ森アーク牧場

自然の中で食べる美味しいバーベキューや男女一緒に行く体験教室など、出会いのきっかけとなる内容を準備しております！20~40代の独身男女で有職者の方が対象になります。5月13日(金)までにお申し込みください。

【日時】平成28年5月28日(土)9時~16時

【場所】館ヶ森アーク牧場

【料金】男性 5,000円 女性 1,500円

【問合】NPO法人ファンスポルト一関

【電話】0191-48-4677

花泉

花と泉の公園 ぼたんしゃくやく祭り

その種類も数も東北最大級の規模を誇るぼたん園です。5月上旬~6月上旬に開花期を迎える40種3,000株のしゃくやくとあわせ、ぼたん祭りが開催される、花と泉の公園の一大イベントです。

【期間】平成28年4月29日(金)~6月5日(日)9時~17時

【場所】花と泉の公園

【料金】◆ぼたん園[大人]500円 [小中学生]250円

◆ベゴニア館 800円 共通券 1,000円

【問合】花と泉の公園(花泉観光開発株式会社)

【電話】0191-82-4066

室根

第28回 森は海の恋人植樹祭

昔ながらの里山の風景が変わりつつある今、植樹により豊かな生態系をもつ里山を維持管理することで自然環境を守り、ひいては川で繋がる海の保全を目指しています。事前申込は不要です。動きやすい格好でご参加ください。

【日時】平成28年6月5日(日)10時開会

【場所】ひこばえの森交流センター

【料金】無料

【問合】NPO法人 森は海の恋人

【電話】0226-31-2751

一関

お試し移住 in いちのせき

一関に移住を考えている方、一関の生活を丸ごと体験できるお試し移住をしてみませんか？敵美の一棟貸切ゲストハウス「山笑亭」に滞在。農林業体験や市内の空き家情報をご用意しています。予約は下記電話番号まで。

【期間】2泊~7泊まで選べます。

【体験場所】一関市敵美町字外谷地

【料金】体験料は下記まで問い合わせください。

【問合】いちのせきニューツーリズム協議会

【電話】0191-82-3111

今月の表紙



「結いネット そげい」は、大東町曾慶地区の協働体で、平成26年7月に設立しました。「心も景色も美しく、住み続けたい私たちの曾慶」を将来ビジョンに、地域づくり計画を策定し課題と向き合い解決しながら積極的に活動しています。

Q & A

あなたの「知りたい」にスタッフが答えます

Q 助成金を申請するときに気を付けなければならないことは？

A 助成金は、申請する前提として、助成プログラムと申請団体の事業目的が一致していなければなりません。申請する前に「何のため」「誰のため」に行う事業かを具体的に明確にし、助成側と申請団体側でずれがないかをよく確認することが大切です。

